

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 11月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3473100562		
法人名	医療法人社団 林医院		
事業所名	グループホーム 森蔵の家		
所在地 (電話番号)	呉市倉橋町11777番地 (電話) 0823-54-2150		
評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会		
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29		
訪問調査日	平成20年11月25日	評価確定日	平成20年12月8日

## 【情報提供票より】(20年11月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	6.75 人

## (2) 建物概要

建物形態	併設 / <u>単独</u>	新築 / <u>改築</u>
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( <u>無</u> ) 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 名	女性 9 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 83.2 歳	最低 88 歳	最高 74 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	室尾 林医院・四道歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、呉市倉橋町の中で古き良きものを残した町並みに位置し、近隣の母体の医療機関や関連の福祉・介護施設とともに、地域の医療・介護の拠点となっており、地域の方々、特に高齢者にとっては安心と心強さが伺えるようである。ホームでは、入居者の方々は事業所の理念の下で、尊厳と権利を守られながら個々のペースに合わせて、それぞれの日課をつくりながら自由の生活をされているようである。また、入居者と職員及び入居者同士が支え支えあう関係づくりも日々の生活の中で極当たり前のようになりつつある。このことを管理者は、ホームの指針として開所時より継続して職員に伝え共感しながら共に取り組まれている。地域の人々の理解と協力及び家族との信頼関係も厚く、入居者の安心した生活を支えているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では運営推進会議を活かした取り組みとして、地域の幅広い立場の人達の参加について検討されることが期待されていたが、その後の取り組みとしては管理者が地域の駐在所や消防団等に運営推進会議の意義や役割等を伝えため前進が見られ、現在では積極的に参加してもらえるようになっており、会議への参加が実現化されつつある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	事業所全体で自己評価の意義とねらいについてよく理解して取り組んでおり、自己評価で課題となった項目については改善にむけて話し合いサービスの向上に活かしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は開催する体制は出来ているが、参加者の都合等により定期的な開催は今一歩のようである。しかし、スターとした当初より苦勞をされた会議への参加メンバーについては、管理者が地道に地域の幅広い人達に運営推進会議への参加を呼びかけた。その結果地域の駐在所や消防団の方達に参加をいただくようになり、それぞれの専門分野からのアドバイスや情報提供及び交換を行っている。これからは、今以上の一般住民の方々の参加に努められることが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の声としては、運営推進会議や家族等の来訪時を捉えて率直な意見をいただきながら、その発生要因や課題をミーティングで話し合っ運営に反映させている。また、全職員は家族等から何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを積極的につくっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	事業所の代表者や管理者及び多くの職員が地元の出身であるため、地域の人々とは顔馴染みの関係にあり、事業所や入居者への理解や協力が得られており、地域全体での見守り声かけが行われているようである。また、代表者自らが地域での行事や企画などに率先して取り組まれており、これに伴い全職員と入居者が共々に積極的に参加して地元の人々との交流や、特にお祭りなどには盛り上げなどを行っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が地域のなかでその人らしく生活することを支えるために、地域との関係性を謳った理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に常日頃から入居者への支援は、理念を具体化してケアの意見の統一を図ることが大切であることを伝えながら、実践に向けて取り組んでいる。		例えば、運営推進会議や家族の訪問時を捉えて、理念を具体化した目標や果たしている役割を明確に伝えると共に、また地域の人々や家族に今以上に理解してもらえるように検討されることが期待される。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的には近隣に散歩に出かけ、近所の人達と挨拶や会話を交わしたり、地域の行事には入居者とともに積極的に参加している。また、地域の清掃やゴミ捨て当番等にも職員が積極的に参加をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	事業所全体で評価の意義とねらいについて話し合い、よく理解して全員で取り組んでおり、その結果を踏まえて質の向上のための新たな指針となっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開始時より懸案であった地域の幅広い立場の人達の参加については困難であったが、最近では管理者が積極的に参加してもらえるよう働きかけられて参加者が増えている傾向にある。また、会議では事業所からの報告とともに参加者からも多くの率直な意見や要望等をいただいております。それを一つひとつ積み上げてサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	所轄の市が開催する研修会や、入居者の介護保険の更新や変更手続きの際には担当者と情報交換等を行いながら関係づくりを図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に手紙で現在の報告をし、他には家族等の訪問時の際には声をかけ本人の状況や家族のことについて話し合っている。また、心身の状況について、変化や問題が起きた時に限らず、きめ細かく報告もするように努めている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族等の訪問時で得た意見や要望等については、ミーティングでその都度話し合っその発生要因を探り、課題を検討し、質の向上を目指している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	事業所全体で常日頃から働き易い職場づくりに留意しながら、離職を最少限に抑える努力や工夫を行っているが、やむを得ず職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取るなどの配慮と努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修や報告会には、出来るだけ多くの職員が参加できるような体制と支援が出来ており、また、研修報告は全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所などとの勉強会や研修を設けて互いに交流を図り質の向上に取り組んでいる。また、事業所外の研修の機会を捉えて他事業所の職員等との意見交換や経験談を交わしながらケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人や家族に入居前に事業所を見学してもらったり、短い時間でも遊びに来てもらうなどして、徐々に馴染みながら本人の安心と納得を大切にしながら利用に移行している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらかつ喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者一人ひとりのペースに合わせてながら、お互いさま、おかげさま、感謝の関係づくりを築き家庭的な雰囲気の中で共に生活していることが伺える。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>全職員は出来栄や結果に囚われることなく、入居者の希望、出来ること、張り合いになることを日々の関わりの中で汲み取り、見出ししながら支援を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の要望を聴き、事業所外の関係者の意見も含めて課題となることを全職員で話し合っ、入居者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>設定した期間での見直しは勿論のこと、現時点での入居者や家族の状況や要望及びサービス提供状況とずれていないか確認しながら、臨機応変な見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医との連携や受診、通院介助等は、本人及び家族の状況に合わせてながら柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する入居前のかかりつけ医での受診の支援はできている。また、通院の仕方や受診結果の報告のあり方について、本人や家族等と納得が得られるよう十分な話し合いを行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う指針を作成し、入居の際に事前に説明を行っている。また、本人や家族、事業所側の状況の変化のたびに、話し合いを繰り返している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所全体で、プライバシーを損ねるような言葉かけやプライバシーの保護の徹底を図っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに職員が合わせながら、個々の日課やその日にしたいことなどの支援を行いながら出来るだけ自由な生活をしていただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付け食器洗いなどは、入居者の気持や意志を大切にしてお願いをしており、また、職員と入居者が散歩がてらに食材を買いに行くなどしながら食を通じて張り合いのある生活の支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	羞恥心や恐怖心に配慮しながら、本人のこれまでの生活習慣や希望に合わせて入浴できるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	全職員は入居者一人ひとりの希望や出来ること、役割等を把握しながら、活力を引き出したり張り合いのある生活となるように支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人のその日の希望や気分に応じて、近くへの散歩や買い物にでかけたりしながら、少しでも多くの外出を支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりの外出のくせや傾向をつかんで、日中は職員同士の声かけや見守りの連携プレーで鍵をかけないケアを行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、定期的に消火機器や避難路の確認や点検を行っている。また、地域で開催される消防大会には多くの職員が参加して、地域の消防団や人々と交流を持ち協力が得られるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日全体を通じた食事量やバランス及び水分量を大まかに全職員が常に意識しながら関わっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古き良き物を活かした民家改装型のホームの中は、生活感や季節感のあるものをうまく活用しながら、居場所が心地よく、自分なりの活動がしやすくなるような工夫や配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや家具等の入居前に自宅で使い慣れた日用品を傍に置いておくなどして、安心して過ごせるような配慮がなされている。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム 森蔵の家

評価年月日 平成 20 年 11 月 25 日

記入年月日 平成 20 年 11 月 3 日

この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 中田 久美

広島県福祉保健部社会福祉局介護保険指導室



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-----------------------	---------------------------------

## 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域との交流を図り職員、地域住民と供により良い生活環境を作り上げ地域に貢献するように心がけている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	利用者が充実した日常生活を送れるよう理念を念頭に置きケアの実践に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	玄関・居間等に明示し、利用者及び家族の方々に説明する等、対応している。		

### 2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の空き地で日光浴、通行人との気軽な挨拶や会話をしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事に参加したり、地域清掃・ゴミ捨て当番にも参加し、地域交流に取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地元住民の参加が少なくなっている秋祭りに職員が参加し祭りを盛り上げている。		
3 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義とねらいについて話し合い全職員で取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を通して事業所からの報告、参加者からの質問・意見・要望等を受け入れ地域交流を図り相互の理解を深めるようにしている。		参加者の調整がつかなく開催が遅れることが多くなっているので定期開催を実施したい。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村が主催する研修会等に参加しながら関係作りを図っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修会に参加、権利擁護事業や成年後見制度の理解に努めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会に参加したりミーティングを行い、理解を深め、危険を察知できるように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書・重要事項説明書を十分に説明し、理解・納得が得られるよう取り組んでいる。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	苦情や意見の記録を残し、ミーティングで話し合いその都度、解決に努めている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	定期的、もしくは必要時に電話・文書で報告し、安心してもらえるように努めている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議などで意見を聞いて記録し、その後のミーティングで話し合い解決に努めている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送りを通して職員の意見・提案を聞くようにし、ミーティングを行うようにしている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	必要時に応じて勤務者・勤務時間帯を調整し、要望に応じられるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮            運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>なるべく移動がないようにしているが、職員が代わる場合は、引継ぎの時間を十分に取り、利用者に支障のないように配慮している。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み            運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人内の医院・老健施設での研修を受けている。また、各研修会に参加し介護の質の向上を図っている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上            運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループ内でのミーティング、勉強会の他、研修会などで情報交換を行っている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>出来るだけ直接聞くようにしているが、言いにくい事はメールなどで対応し、スーパーバイザー等への相談も行っている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み            運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>個々の能力に応じて活躍の場、環境作りをしたり、仕事への喜びや、やりがいに繋がるような言葉かけや対応をするように努めている。</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>電話相談などに、環境面や医療面など、さまざまな方面からの相談を受けその力に合う条件を提供している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談利用希望の話し合いを十分に実施し、受け止めることにより信頼関係を築けるようにしている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者と家族の要望には出来る限り対応出来るよう、相談し必要としている支援を実現できるよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族や入居者本人の気持ちの確認などを行いながらホームの雰囲気も感じてもらえるようにしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で共に生活している。生活の技や文化について教えて頂く場面を大切にしながら支援を行っている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	出来る限り家族の方も一緒に行事に参加して頂き、職員と一緒に本人を支える形を作っている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	家族と本人との時間を作るため、面会時は各居室でくつろいで頂けるよう支援している。また、希望があれば家族も宿泊できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>本人・家族の希望時など面会・訪問支援を行い、これまでの交流の支援の延長が出来るよう努めている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>各利用者の生活レベルに応じて、ひとり一人が孤立しないよう関係を深めることが出来るよう支援している。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>サービス終了後も利用者・家族からの要望があればその都度対応できるようにしている。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p><b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>利用者からの思いや意向を日常の会話や生活支援の中から捉えるようにしている。決定が困難な利用者には家族と話し合うなど、本人の立場に立ち捉えるよう取り組んでいる。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>これまでの生活歴を本人・家族から聞き取り、今までと変わらないよう生活が出来るよう支援している。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>日々の生活支援の中からあらゆる視点から利用者の状況を把握できるようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	3ヶ月ごとに話し合い見直し、本人がより良く暮らし続けて頂けよう介護計画に反映させている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月ごと、又は状態に変化があったときに見直し介護計画の変更を実施している。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	申し送り利用者の変化ほ確認し、その都度記録し職員全員が把握できるよう徹底している。		
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者に安心して暮らして頂くために、本人の状況や家族の要望に応じて協力医との連携、通院介助等している。		
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を通じて交流を図っており、助言や協力をして頂いている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人や家族の意見を尊重し、必要に応じて対応出来る体制をとっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議を通じて地域包括支援センターと協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者本人や家族の希望があれば、ホームの提携医の他に今までのかかりつけ医への受診も可能としている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医に情報提供を行い診断・治療がスムーズに受けられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	同敷地内に契約している訪問看護ステーションがあり日常の健康面や医療面について相談・支援をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した場合は職員が面会を行い、本人のストレスや負担が軽減でき、早期退院が出来るよう支援を行っている。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有            重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化した場合の対応に係る指針を入居の際に説明同意を得ている。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援            重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化した場合とこまで施設で対応出来るか、家族の意向、医師の判断等により検討し取り組むようにしている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止            本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>他の場所へ移り住む場合情報提供をし、本人が安心して転居できるように関係者が協働して支援している。</p>		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援            (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底            一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>一人ひとりにあった言葉かけを行い注意をしながら対応をしている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援            本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの理解力に合わせた本人の希望を尊重し、支援を行っている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし            職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりのペースを大切にし、本人の体調や希望を尊重した支援を行っている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	グループ内に理美容有資格者がおり支援している。また、希望があれば本人の希望する店に行けるよう支援している。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と一緒に食事を楽しむようにしている。片付けや食器洗いなども利用者の能力に応じて支援している。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	買い物に出かけ、欲しいものが買えるようにしている。また、家族に面会時に一緒に買い物に行って頂いたり、買ってきてもらえるようにしている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりに合わせた対応を行うようにしており、出来ない部分のみさりげなくカバーするようにしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者の生活習慣や、その日の状態や希望に合わせてながら柔軟な入浴支援を行っている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中の活動量を増やすなど生活リズムを整えるようにしている。眠れずに起きてくる利用者には添い寝をするなどして不安感をゆっくり聞くなどの工夫をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	出来ることやりたいことなどを考慮しながら楽しみが低下しないよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの力量に応じて判断しながら対応している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望に応じて買い物や、散歩など出来るよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	出来るだけ本人の希望に添えるように家族に相談したり、個別に対応するなど支援を行っている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	暑中見舞い・年賀状等書いて頂くよう支援しており、必要に応じて電話の介助もしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人がいつでも訪問できるよう面会時間は設定していない。また、いつでも宿泊出来るようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	<p>身体拘束をしないケアの実践            運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>ミーティングや勉強会等に参加し職員一同、身体拘束のないケアを心掛けている。</p>		
66	<p>鍵をかけないケアの実践            運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>日中は鍵を掛けず、自由に出入り出来るようにしている。</p>		
67	<p>利用者の安全確認            職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>夜間は定時の見回りや、日中はフロア全体を見回すことの出来る場所に位置し、さりげなく観察できるようにしている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理            注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>刃物などは利用者の手の届かない場所に保管し、薬品は別に保管場所を設けている。状況によって、管理方法の確認、見直しを行うようにしている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み            転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>ひやり・はつとを活用しながら、再発防止策その都度話あっている。また、緊急事態の対策マニュアルにより、全ての職員が内容を把握している。</p>		
70	<p>急変や事故発生の備え            利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。</p>	<p>研修会に参加したり、医師・看護師指導の下全ての職員が対応出来るよう取り組んでいる。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	毎年消防大会に参加したり、地域の消防団とも交流があり、協力が得られるように働きかけている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	利用者一人ひとりに起こり得るリスクを職員同士、情報交換をし、家族にも説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日、バイタルチェックを行い職員一同、異常の早期発見に注意を払っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の知識はミーティング、勉強会にて看護師を交えて行っている。服薬は医師の指示通りに支援している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	一人ひとりの状態を把握し、食事・排泄・活動状況等を見直し自然排便を促す工夫を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	うがいの支援や毎日の歯磨き、義歯の洗浄等日常的に支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	利用者一人ひとりに合わせ、またその日の体調に合わせて工夫しながら対応している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを作成しており日ごろから感染予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具・台所は熱湯消毒又は薬液消毒を実施し、食中毒予防に努めている。食材も買い置きしないようにしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関まわりに草花を季節ごとに植え替えたり、訪問しやすい環境を作るよう心掛けている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	照明などは落ち着いた雰囲気の出る色を選択し、季節感を出すため飾りを変えたりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で休む空間と居間で他の利用者自由に団樂できる空間を設けている。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居されても違和感がないよう、家具・テレビ・仏壇など使い慣れた物が自由に持ち込みが出来るようにしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	毎日換気を行っており、室温は空調により季節や利用者の体調に応じて適切に行っている。		
( 2 ) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	要所に手すり等を設置しており、安全かつ快適に過ごせるよう工夫している。出来るだけ一人ひとりが自立した生活を送れるよう支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室の入り口には名前を貼り、迷わないよう工夫している。また、トイレや浴室等も分かりやすく明記している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	居室から中庭の景色を楽しめたりメダカや鯉に餌をあげたりしている。		